

JBIC Today

特集

アフリカに対する取組み

— TICAD Vが目指す新たな5年に向けて —

わが社の
海外物語

自動二輪車、建設機械用ワイヤーハーネスの
事業強化へ

播州電装株式会社(兵庫県加古川市)

SPOT
LIGHT

チリ電力インフラ市場における
日本企業初の出資参画を支援

7

2013 July



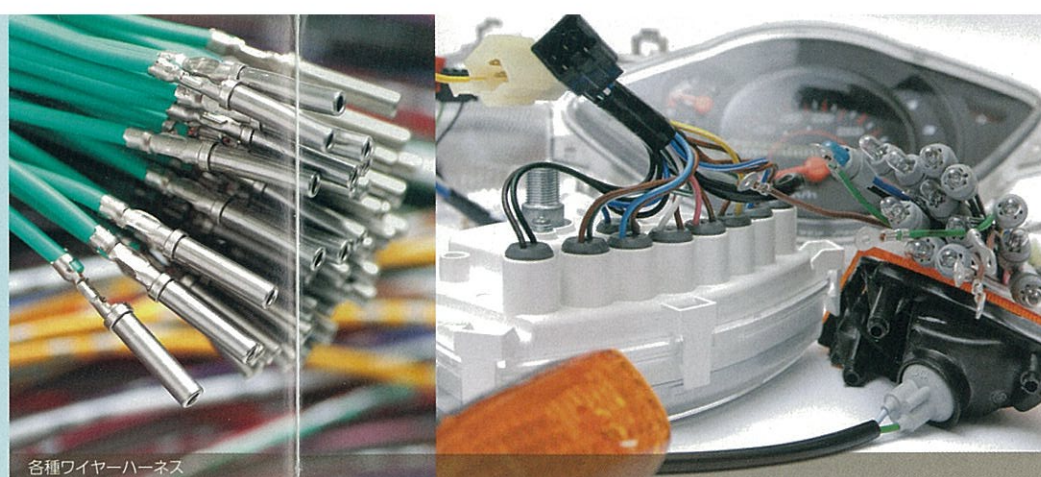
株式会社国際協力銀行

JBIC JAPAN BANK FOR INTERNATIONAL COOPERATION

日本の力を、世界のために。

Supporting Your Global Challenges

自動二輪車、建設機械用 ワイヤーハーネスの事業強化へ



各種ワイヤーハーネス

播州電装株式会社は、自動二輪車、建設機械向けのワイヤーハーネスを中心とした電装品を開発・製造しています。特に、同社のインドネシア法人は、世界3位の二輪車市場を擁するインドネシアにおいて、80%以上の自動二輪車の車体のどこかに播州電装のワイヤーハーネスが採用されています。

→「つなぐ、むすぶ、伝える」プロダクトスピリット

ワイヤーハーネスは、電力・電気信号ケーブルを束ねたもので、電機・電子機器の血管・神経に相当する重要部品です。

播州電装はワイヤーハーネスの専門企業で、建設機械用ワイヤーハーネスは、世界の建築現場で活躍しています。同社が、インドネシアにPT. BANSHU ELECTRIC INDONESIAを設立したのは、1996年のことです。

「90年代に入って急激に円高が進み、大手建設機械メーカーがインドネシアで現地生産を進めました。その現地調達

ニーズにお応えするため、地元の自動車部品企業に外注し、さらに合併事業を行いました。しかし、言葉や文化の違い、品質・コスト意識で現地企業との温度差があったため、自社生産を決断しました」と、米田昭彦社長は振り返ります。

当初、建設機械用を主力としつつ、インドネシアの自動二輪車市場の成長を見越して、1998年に自動二輪車用ワイヤーハーネスの生産も平行してスタートさせました。苛酷な環境で使用される建設機械用を主力としてきた同社の製品は、日系自動二輪車メーカーから、その品質・耐久性などが高く評価され実績を伸ばしてきました。

その後、同社は、プラスチック射出成形、薄板プレス、ゴム成型を行うインドネシア現地法人(新工場)を次々と設立し、一貫生産・供給体制を確立する一方、品質管理のISO9000シリーズを取得しています。現在では、インドネシアで販売される自動二輪車の80%以上に同社のワイヤーハーネスが採用されています。

→「品質」「デリバリー」「コスト」を高める

同社のワイヤーハーネスは約2,000品目におよび、自動化が難しい工程も数多くあります。さらに、排ガス規制や燃費向上、操作性向上といった時代のニーズに沿って、エンジン、足回りなどの制御にセンサーやマイコンが製品に多数使われるようになり、その中で使用されるワイヤーハーネスも複雑・高度化しています。

同社は、「QDC=品質、デリバリー、コスト」をテーマに生産技術を進化させ、インドネシアの工場で実践してきました。

「重視したのは『インドネシア化』と『IT化』。日本のやり方の押し付けではなく、彼らの価値観を理解し、現地に適したシステムを構築すること、そして、徹底したITの導入を推進しました」(米田社長)。

米田社長をはじめ日本人社員は、積極的にインドネシア語を使ってコミュニケーションを深め、現場に任せることでモチベーションを高めてきました。現在、インドネシア法人4社全ての社員合計約3,500人のうち、日本人はわずか3人とのこと。雇用拡大に貢献し、工場内にモスクを設けるなど現地に溶け込む経営と、福利厚生制度を充実し、インドネシアの市場環境変化にいち早く対応する経営を推進しています。IT化では、お客様の生産計画に連動するWEB-EDIシステム(インターネット受発注・生産計画システム)を構築して、JIT(ジャスト・イン・タイム)生産・出荷を実現。生産現場でも計画・実績・段取りなどの「見える化」により、品質向上と効率化を実現しています。さらに、工程ごとの検査履歴管理によりチェック漏れを防ぎ、不具合発生時のトレーサビリティ(追跡管理)も可能にしています。

→ 世界最適地生産のもと、さらなる強化へ

同社が目指すのは「他に負けない高品質な製品と、納期も含めた顧客中心のサービスの提供」。2008年のリーマン・ショックでは厳しい経営を迫られましたが、いち早く景気回復したインドネシアを軸にV字回復を果たしました。原動力は、2009年に稼働した日本ーインドネシアを結ぶ「リアルタイム・オンライン・生産管理システム」。アジアを中心とした新興国での資源開発用の建設機械や二輪車市場の急激な拡大に伴い、新規受注も次々と成功し、そうした事業拡張に向け、2013年4月に、JBICは百十四銀行との協調融資で総額1億円の融資を行うことになりました。

「今回、現地法人に直接融資をいただきましたが、現地法人の実力を評価いただいたことを喜んでいますが」と米田社長は語っています。

JBICの関わり

2013年4月、JBICは、播州電装のインドネシア法人PT. BANSHU ELECTRIC INDONESIAと、百十四銀行との協調融資で総額1億円の貸付契約を結びました。今回の融資は、2012年11月にJBICと百十四銀行が締結した業務協力協定に基づくもので、日本企業の海外事業活動を支援するため、現地法人に融資を行ったことが大きな特色です。

会社概要

社名	播州電装株式会社
創業	1965年(昭和40年)
設立	1968年(昭和43年)7月
資本金	5,000万円
代表者	代表取締役社長 米田昭彦
事業内容	各種ワイヤーハーネス製造輸入販売
本社所在地	〒675-0102 兵庫県加古川市平岡町西谷25-1
工場	本社工場(加古川市)、明石工場(明石市)
海外法人	PT. BANSHU ELECTRIC INDONESIA PT. BANSHU PLASTIC INDONESIA PT. BANSHU METAL INDONESIA PT. BANSHU RUBBER INDONESIA



インドネシア工場外観



インドネシア工場内部の様子